

玉村町版
生涯活躍のまち構想

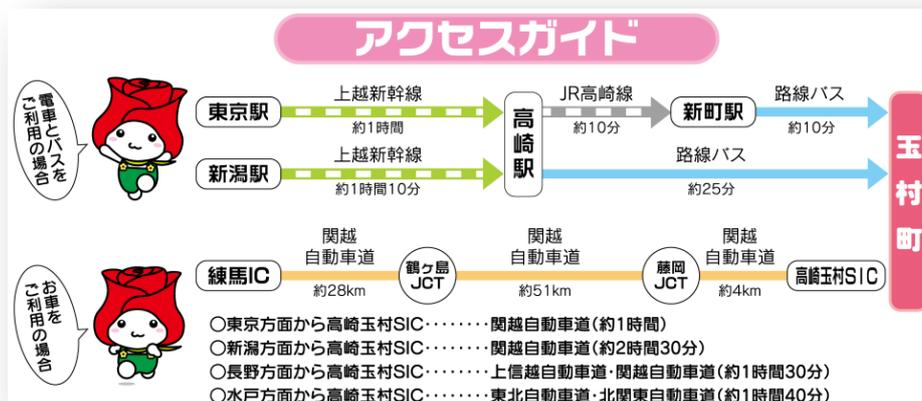


平成29年8月

1. 玉村町の概要

玉村町は関東平野、群馬県南部に位置し、前橋市・高崎市・伊勢崎市・藤岡市の4市に囲まれ、北には利根川、南に烏川があり、赤城、榛名、妙義山を一望できる自然豊かなところである。

- ・人口 36,874人(平成28年10月1日現在)
- ・高齢化率 21.8%(平成28年10月1日現在)



2. 「地方移住の推進」の施策としての「生涯活躍のまち構想」

国は地方移住を推進しており、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中でも、下記のとおり主な施策として「生涯活躍のまち（日本版CCRC）構想」に取り組む方針である。

まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015改訂版）（抄） （平成27年12月24日閣議決定）

Ⅲ. 今後の施策の方向 3. 政策パッケージ (2) 地方への新しいひとの流れをつくる
(ウ) 地方移住の推進

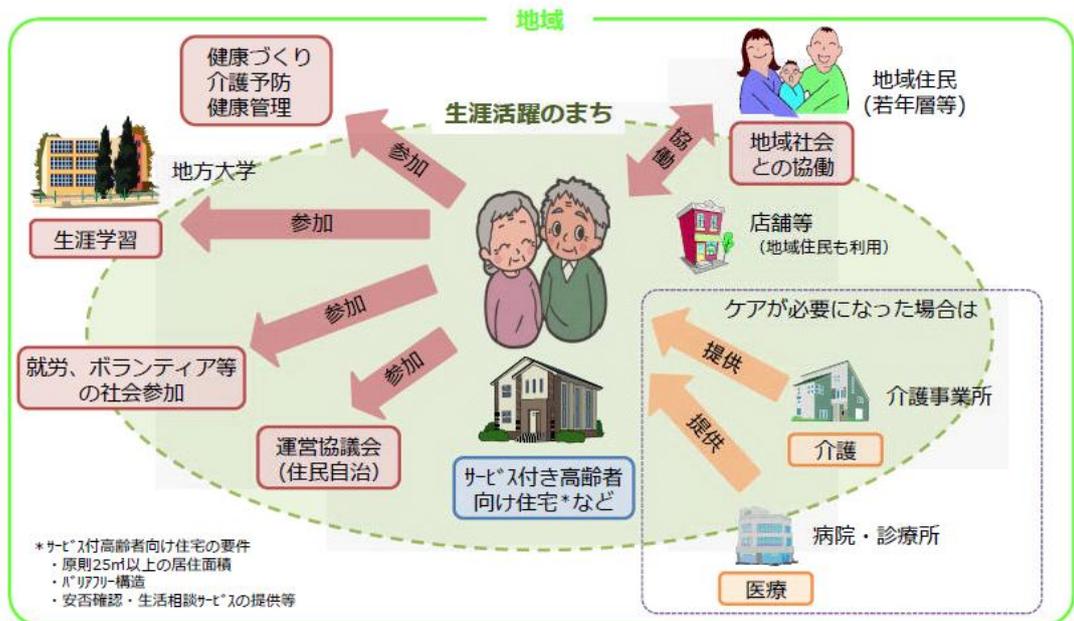
【施策の概要】
地方移住を希望する国民の様々なニーズに応えるため、地方移住についてのワンストップ相談など支援施策の体系的・一体的な推進と地方居住推進の国民的な気運の醸成を図ることが重要である。また、都市と農山漁村交流の推進、「お試し居住」を含む「二地域居住」の推進、住み替え支援策の検討が必要である。さらに、退職期を控えて移住を検討する場合には、「お試し居住」等により地域のコミュニティとの交流機会を持つなどの対応の充実を図ることも必要である。
加えて、高齢者の希望の実現や地方移住の推進を図る観点や、高齢者の「まちなか」居住や地域・多世代交流を支援する観点から、「生涯活躍のまち（日本版CCRC※）」構想を推進する。これにより、東京圏をはじめとする地域の高齢者が、自らの希望に応じて地方に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることができるような地域づくりの実現・普及を目指す。

※ 米国では、高齢者が移り住み、健康時から介護・医療が必要となる時期まで継続的なケアや生活支援サービス等を受けながら生涯学習や社会活動等に参加するような共同体(Continuing Care Retirement Community)が約2,000か所存在している。

【主な施策】
◎(2)－(ウ)－③「生涯活躍のまち（日本版CCRC）」構想の推進
東京都在住者のうち、50代男性の半数以上、また、50代女性及び60代の約3割が地方への移住の意向を示していることに鑑み、希望に応じ地方や「まちなか」に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら生涯学習等を通じて健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような「生涯活躍のまち（日本版CCRC）」構想の導入に向け、2015年2月より有識者や関係省庁が参画する「日本版CCRC構想有識者会議」を開催し、同年12月に「最終報告」が取りまとめられたところである。この「最終報告」を踏まえ、2015年度中に関係省庁が連携して地方公共団体の事業具体化に向けた取組を支援するチームを立ち上げ、地方公共団体の取組を一層円滑に進め、「生涯活躍のまち」構想の実現・普及に向け取り組んでいく。また、介護保険制度における調整交付金の在り方について検討する。高齢者が多世代と交流しながら活躍できる地域づくりを進めるため、「生涯活躍のまち」構想について、必要な法制を含め制度化などの施策展開につなげていく。

「生涯活躍のまち」構想における高齢者の生活のイメージ

- ①健康でアクティブな生活の実現と継続的ケアの提供、②自立した生活ができる居住環境の提供、
③入居者の参画の下、透明性が高く安定した事業運営によるコミュニティの形成を一体的に実現。



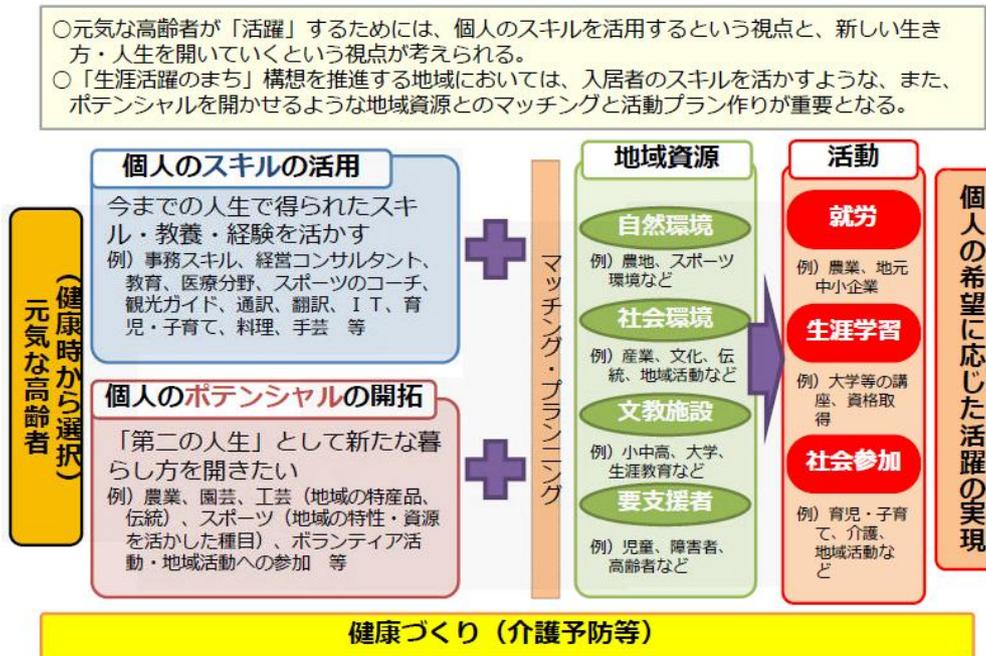
※事業の透明性・安定性の確保の方策：入居者の参画、情報公開、事業の継続性確保等

出典：「生涯活躍のまち」構想参考資料（まち・ひと・しごと創生本部）

3. 「生涯活躍のまち」の具体的なイメージ

「生涯活躍のまち」は、元気な高齢者が個人のスキルを活用しながら、就労、生涯学習、社会参加などを行い、多世代とともに、いきいきと暮らすことができるまちをつくることである。

「生涯活躍」の具体的なイメージ



「生涯活躍のまち」構想の基本コンセプト

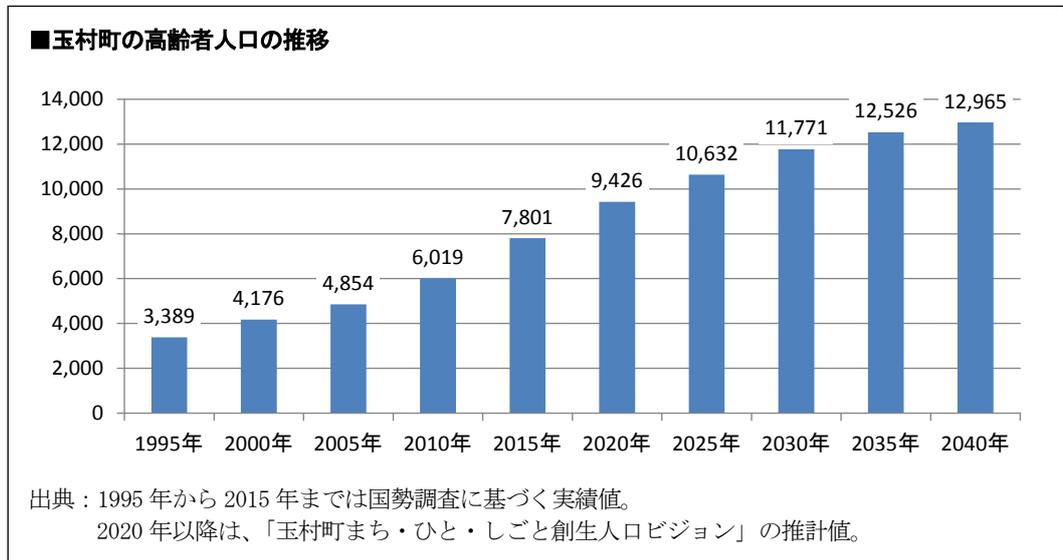
- 1. 東京圏をはじめ地域の高齢者の希望に応じた地方や「まちなか」への移住の支援**
移住希望者に対してきめきめ細やかな支援を行う。東京圏等から地方へといった広域的な移動を伴う移住のみならず、「まちなか」への転居など地域内での移動を伴う取組も想定。
- 2. 「健康でアクティブな生活」の実現**
健康な段階からの入居を基本とし、目標志向型の「生涯活躍プラン」に基づき、健康づくりや就労、生涯学習など社会活動に主体的に参加することを目指す。
- 3. 地域社会 (多世代) との協働**
入居者が地域社会に積極的に溶け込み、子どもや若者など多世代との協働や地域貢献できる環境を実現する。ソフト面全般にわたる「運営推進機能」の整備や、地域包括ケア関連施策との連携も重要。
- 4. 「継続的なケア」の確保**
医療介護が必要となった時に、人生の最終段階まで尊厳ある生活が送れる「継続的なケア」の体制を確保。重度になっても地域に居住しつつ介護サービスを受けることを基本とする。
- 5. IT活用などによる効率的なサービス提供**
医療介護人材の不足に対応し、ITや多様な人材の活用、高齢者などの積極的な参加により、効率的なサービス提供を行う。
- 6. 居住者の参画・情報公開等による透明性の高い事業運営**
入居者自身がコミュニティの運営に参画するという視点を重視。
- 7. 構想の実現に向けた多様な支援**
情報支援、人的支援、政策支援により構想の具体化を後押し。

出典：「生涯活躍のまち」構想参考資料 (まち・ひと・しごと創生本部)

4. 玉村町の地域特性と「生涯活躍のまち」の方向性

(1) 人口構造：増加する高齢者人口への対応

玉村町でも、今後高齢者人口が増加するため、要介護認定者も増加すると考えられる。玉村町版「生涯活躍のまち」は、町内の高齢者人口や要介護認定者の増加を踏まえて、介護予防の充実や適切なサポート体制の構築などを進め、入居者だけではなく、町内の高齢者が安心して暮らせるまちづくりに役立つ内容にする必要がある。



(2) 転入状況：若者世代の転入促進

玉村町の転入者は、近年1,200人前後で推移しているが、20～30歳代の転入者が700人前後と約6割を占め、その中で高崎市、伊勢崎市、前橋市からの転入者が300人前後となっている。玉村町版「生涯活躍のまち」は、こうした周辺3市からの若者の転入状況を踏まえ、より多くの若者やファミリー層が転入して地域が活性化するよう、シニア層に限らず若者世代など幅広い年齢層を対象とした内容にすることが大切である。

■住民基本台帳人口移動報告に基づく、玉村町への年齢階層・前住所地別転入者数（単位：人）

年次	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
2015年	1,165	127	76	393	282	126	63	98
2014年	1,235	142	81	408	292	145	70	97
2013年	1,211	140	82	417	287	117	65	101

出典：住民基本台帳移動報告（総務省）

注）年齢不詳者がいるため、総数と年齢階層別の合計は一致しない場合がある

■2015年の玉村町への年齢階層・前住所地別（市町村別）転入者数（単位：人）

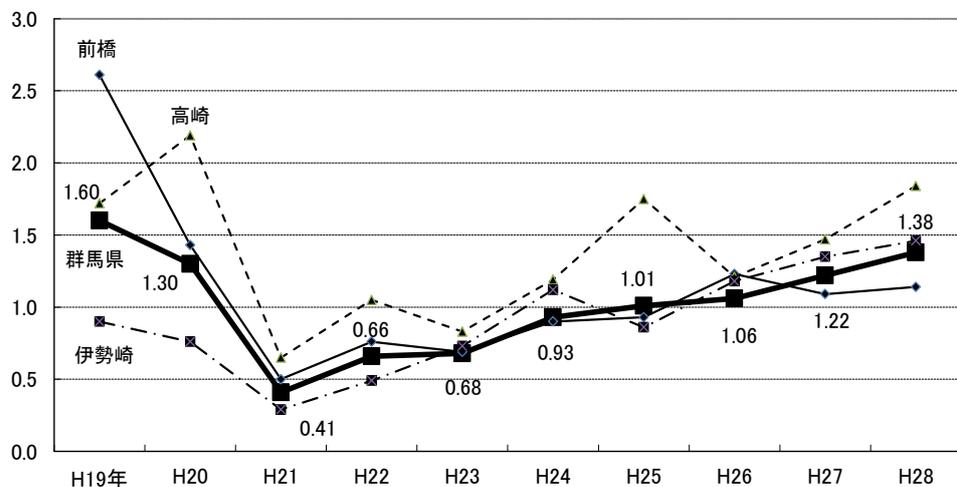
前住所地	総数	0～9歳	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
高崎市	195	24	8	57	47	24	12	23
伊勢崎市	173	27	5	66	42	18	9	6
前橋市	159	14	10	53	49	16	4	13
藤岡市	76	6	4	30	23	7	2	4
東京都23区	45	2	1	13	7	4	0	18
太田市	29	3	3	8	7	4	4	0
横浜市	19	2	0	10	2	2	2	1

出典：住民基本台帳移動報告（総務省）

（3）雇用環境：企業進出による雇用機会の広がり

群馬県、高崎管内、伊勢崎管内（玉村町含む）の有効求人倍率は上昇傾向にあり、玉村町周辺地域では、求人数が求職数を上回る。こうした現状に加えて、伊勢崎宮郷工業団地が平成26年度から、高崎スマートIC産業団地が平成27年度から分譲を開始しており、事業所の開設とともに従業者が玉村町や周辺地域に転入してくる可能性がある。工業団地の従業者が、玉村町に住まいを求めよう、「生涯活躍のまち」は、工業団地の従業者（若者など働きざかりの世代）の転入を促す内容にすべきである。

■群馬県内の有効求人倍率（学卒除きパートを含む）の推移



出典：労働市場月報2016.7（厚生労働省群馬労働局）各年7月時点の月報

(4) 既存ストック：空き家住宅等の有効活用

玉村町には、賃貸用住宅を含め、空き家が約2,000戸ある。「生涯活躍のまち」では、こうした既存ストックを活用し、比較的安価な賃料で入居できる住まいを提供することが大切である。若い世代が入居しやすい賃料にすることで、玉村町への転入を促していく。

■玉村町の住宅総数、空き家数（単位：戸）

	平成15年	平成20年	平成25年
住宅総数	14,490	15,450	15,720
空き家総数	1,570	1,990	1,950
二次的住宅	100	40	30
賃貸用の住宅	720	1,300	1,230
売却用の住宅	140	80	20
その他の住宅	610	560	660

出典：住宅・土地統計調査（総務省）

注）四捨五入のため合計と内訳は一致しない。

(5) 大学集積：町内外6大学との連携

玉村町とその周辺地域には、6つの大学が立地している。「生涯活躍のまち」では、大学と連携し、大学生の研究・地域活動などの取り込み、大学生の転入などを図るべきである。玉村町の周辺の大学では、ボランティア活動を単位として認定している大学もある。「生涯活躍のまち」に、大学生が専門を活かして活躍できるボランティア活動の機会を用意し、入居者や町内の高齢者への生活支援などの活動を促していく。さらに、群馬県立女子大学等が実施する生涯学習に役立つ公開講座などを活用し、玉村町での暮らしの魅力を高め転入を促していく。

■大学ヒアリング調査結果

- ・高崎健康福祉大学では、教育研究の成果を一般社会に還元するため、市民を対象とした公開講座や専門職を対象とした講座を開講している。また、子どもと家族の健康を支援するため、学内に子ども・家族支援センターを開設している。相談や公開講座を行うほか、親子フラダンス教室、ヨガ教室なども開催している。
- ・高崎健康福祉大学は、平成18年4月に「ボランティア・市民活動支援センター」を設立し、専用ルームとスタッフを配置して、学生のボランティア活動を積極的に促している。「ボランティア・市民活動支援センター」では、ボランティア・市民活動を必要とする施設・病院や団体から、ボランティアの依頼を受け付けている。そして、掲示板やメルマガを通じて学生に情報を伝え、学生からの応募があれば依頼者に対して連絡する仕組みを整えている。学生は自分の好みに応じてボランティア活動に参加している。



(6) 医療介護：町内外の医療機関・介護事業者との連携

町内には医療法人樹心会角田病院があるほか、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護付有料老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等が開設されている。さらに、訪問介護事業者や通所介護事業者などが介護サービスを提供している。また、本町周辺には、新たに建設される前橋赤十字病院の新病院をはじめ伊勢崎市民病院等の急性期医療機関が充実している。

こうした町内外の医療機関や介護事業者と連携し、高齢者が安心できる体制を整えることが重要である。

■地域医療の概況

- ・一般社団法人伊勢崎佐波医師会ホームページによれば、玉村町内には、病院が1施設、診療所が16施設ある。中でも角田病院は、診療科目8科、病床数125床を備え、玉村町唯一の病院として地域医療を支えている。さらに、介護老人保健施設を併設し、ヘルパーステーションや居宅介護支援事所等、在宅医療にも注力している。

■介護関連施設の概況

- ・厚生労働省介護サービス事業所の検索サイト「介護サービス情報公表システム」によれば、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）は、町内に2施設が開設されている。また、在宅復帰を目指している人が入所する介護老人保健施設は、町内に2施設が開設されている。さらに、特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム）が1施設、サービス付き高齢者向け住宅5施設（121戸）が開設されている。



(7) 移住ニーズ：地方移住肯定者が期待する生活利便性と経済性への対応

国が実施した世論調査では、都市部居住者の約2割が地方に移住してもよいと考えており、地方移住の潜在的ニーズが確認されている。そして、地方移住に肯定的な回答者は、「教育、医療・福祉などの利便性が高いこと」「居住に必要な家屋や土地が安く得られること」を、地方移住の上位の条件にあげている。こうした地方移住肯定者のニーズに対応する必要がある。

■移住・転居に関心のある群馬県在住者に対するアンケート調査結果

・「玉村町が移住・転居の候補地となる」と回答した人は10.2%であった。「どちらかと言うと移住・転居の候補地になる」との回答を加えると、約4割が玉村町を移住・転居の候補地と捉えている。

■移住・転居に関心のある東京圏在住者に対するアンケート調査結果

・「玉村町が移住・転居の候補地となる」と回答した人は5.2%であった。「どちらかと言うと移住・転居の候補地になる」との回答を加えると、約3割が玉村町を移住・転居の候補地と捉えている。

(8) 生涯活躍：住民が活躍できる仕組みづくり

玉村町に暮らす人々が、生きがいを感じ、充実した生活を過ごせることが大切である。住民や転入者がそれぞれの能力を発揮して生きがいを感じ、なおかつ地域社会のためにも役立つような好循環を生み出す仕組みを用意していく。住民や転入者が備えているスキルやネットワークなどを地域づくりに活かせるよう、得意なことを発掘する仕組みや活躍できる舞台を整えていく。



5. 「生涯活躍のまち」の基本コンセプトー「多世代共生の生涯活躍のまち」

玉村町の「生涯活躍のまち」は、今後の高齢者人口の増加を見据え、町内外の高齢者が安心して暮らせるまちづくりとして捉え、以下を基本コンセプトとして実現を図る。

1. 町全域、全世代を対象とした「生涯活躍のまち」の実現を目指す。
2. ふれあいの居場所を核とした、多世代が共生するまちを目指す。
3. 大学と連携・協働するまちを目指す。
4. 子どもから高齢者、すべての人が自分らしく生きがいを持ち、健康で住み続けられるまちを目指す。

6. 玉村町の「生涯活躍のまち」の具体像

「生涯活躍のまち」構想に関する手引き（第3版 内閣官房）では、「生涯活躍のまち」構想は、「入居者」「立地・居住環境」「サービスの提供」「事業運営」の4つの観点から具体化する必要があるとしている。玉村町の地域特性を踏まえた4つの観点に関する具体像は、下記のとおりである。

（1）入居者に関する方針

◆町内外の大学生の転入促進

町内には群馬県立女子大学が立地しているほか、周辺地域には高崎健康福祉大学や上武大学など5つの大学が立地している。これらの学生に対して、町内の住宅ストック（空き家の賃貸住宅等）を活用して、割安な住まいを提供し、「生涯活躍のまち」への居住を促す。

◆工業団地の拡張・新設に合わせた若者の転入促進

町内外で工業団地が拡張・新設され、新たな雇用機会が生まれる。このチャンスを活かし、東京圏の群馬県出身者や近隣地域の若者に対して、転職と「生涯活躍のまち」への居住を促す。

◆ファミリー層の転入促進

工業団地の拡張・新設に伴う雇用機会や子育てしやすい町の特徴を活かし、町内外のファミリー層に対して「生涯活躍のまち」への居住を促す。

◆シニア層の転入促進

介護と医療の連携を強化し、地域包括ケアシステムの拠点となる「生涯活躍のまち」を築き、町内外のシニア層の居住を促す。

（2）立地・居住環境に関する方針

◆医療機関との連携を踏まえた立地

高齢者が安心できるよう、病気になっても心強い「生涯活躍のまち」を築くため、町内外の医療機関との連携を視野に入れて、医療機関に近接した場所に「生涯活躍のまち」を配置する。

◆町民のアクセス性に配慮した立地

町内の高齢者にとって、「生涯活躍のまち」が介護予防や健康増進に貢献するよう、町内各所からアクセスしやすい場所に「生涯活躍のまち」を築く。

◆拡張性を備えた立地

町内や周辺地域の高齢者の増加に伴い、「生涯活躍のまち」の入居希望者は増える可能性がある。そのため、将来の拡張が可能な場所に「生涯活躍のまち」を築く。

(3) サービス提供に関する方針

◆転職支援サービス

町内外の企業や新たに工業団地に進出する企業と連携するとともに、人材紹介企業のノウハウも活用して、東京圏在住の群馬県出身者等の町内外企業への転職を促す支援サービスを提供する。

◆住み替えサービス

町内外の企業や工業団地に進出する企業と連携し、「生涯活躍のまち」や町内に従業員が住まいを求めやすくなるよう、円滑に住み替えができるような支援サービスを提供する。

◆子育て支援サービス

「生涯活躍のまち」に転入する若いファミリー層が、仕事と子育ての両立ができるよう、幼稚園、保育所、認定こども園の利用や子育て支援制度の活用を促すサポート機能を提供する。

◆地域ボランティア活動の紹介サービス

「生涯活躍のまち」に入居する学生、ファミリー層、高齢者層が、町内の地域活動やボランティア活動に参加できるよう、活動内容の情報提供、活動団体への紹介を行うサービスを提供する。

◆ボランティアポイント・地域通貨・有償ボランティアサービス

住民や転入者などに対し地域づくりやボランティア活動への参加を促すため、ボランティアポイントや地域通貨、有償ボランティアの仕組みを整える。

◆地域活動や交流活動を促すプログラム

「生涯活躍のまち」が中心となって、様々な地域活動が展開されるよう、「生涯活躍のまち」に入居者や町民の地域活動や交流活動を促すプログラムを提供する。

(4) 事業運営に関する方針

◆民間主導の事業運営

民間事業者が中心となり「生涯活躍のまち」の構築に向けた体制の整備や事業運営を行う。玉村町は、民間事業者が進出しやすくなるよう、用地の提供、交流施設の整備などの支援を行う。

◆地域に密着した事業主体の確保

「生涯活躍のまち」では、若者、ファミリー層、高齢者層が入居する住宅を安定して管理運営することが重要である。このため、長期にわたり地域に密着して事業を行える民間事業者を募る。